

## **年頭にあたり(新春懇談会)**

**礼文町長 小野 徹**

新年あけましておめでとうございます。

平成20年の輝かしい新春をみなさんとともに迎えることができましたことを心からお慶び申し上げる次第でございます。

また、本日は、新年早々のお忙しい中、ご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。私も、就任後3回目の新春を迎えることができました。

“子年(ねどし)”の今年は初心に立ち返り、私がスローガンに掲げてまいりました「礼文町に元気を！」をモットーに、更に全力を傾けてまいりますので一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年度の功労者表彰につきましては、表彰審議会でご相談をさせていただき、

本日の新春懇談会の中で行うこととしたものでございまして、ただ今、町の表彰条例に基づいて功労者のみなさんに表彰状をお渡ししたところでございます。

受賞された皆様は、長年にわたり、それぞれの分野におかれまして常に情熱をもって献身的にその職務に精励され、郷土礼文町の発展のために地域住民の福祉向上に尽力され、或いは、多額のご寄付、また、ボランティア活動を通じて本町の貴重な自然保護に貢献された方々であり「子や孫のために夢の種をまかれてこられた」皆様でございます。多大なるご功績を賜りました功労者のみなさまに、心より深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

礼文町は、皆様方のたゆまないご努力によって、今日の繁栄を築き上げることができた

ところでございまして、皆様のご功績に心より  
お祝い申し上げますとともに、今後も更なる  
ご支援とご尽力をお願い申し上げますところ  
でございます。

さて、年の初めにあたり、まず、「温泉掘削」  
について申し上げます。

温泉開発につきましては、多くのみなさん  
から「ふるさと礼文島に温泉を」という熱い想  
いととも、これまで温泉開発基金に対しまし  
て1億7,400万円を超える大変大きなご  
支援いただいているところでございます。心か  
ら感謝を申し上げます。

また、既に皆様ご承知のとおり、昨年六月か  
ら香深・入舟地区において開始いたしました  
「温泉掘削」は昨年末には1,303メートル  
地点まで進みました。この地点で予想以上  
に高い57℃の温度を確認できましたし、これ

までにも温泉を期待できる箇所を数箇所確認しておりましたので、年末からお湯の汲みあげ試験を行なったところでございます。経過は大変良く、昨日現在で、お湯の温度も33.5℃を確認しており、道立地質研究所の見立てでは最終的には40℃を超えるものと予想されております。

温度もお湯の量も十分とうかがっておりますので、礼文島初の温泉という期待は極めて大きいと考えておりますが、正式な検査の結果は今月末に判明する予定となっておりますので、今少し、お待ちをいただきたいと思います。いる次第でございます。

今後は「温泉施設」の建設となりますが、温泉施設の建設に対して国の「離島体験滞在交流促進事業補助金」が2年間でありませんが2億円採択される見込みであること、ま

た、施設の建設用地取得費も削減される方向にあることから、資金面の改善と将来の負担が大きく軽減されることとなります。

また、温泉施設の経営や町債の返済など、将来にわたり町民みなさんの負担を増やさない運営をしていくためには、できるだけ多くの方に利用していただける場所に温泉施設を建設する必要があると考え、温泉開発会議や議会のみなさんとも協議して、「香深港」に建設することを決定させていただきましたので、ご理解を賜りたいと存じます。

いずれにいたしましても、永年の夢の実現に向け、事業を進めているところでございます。島のみなさんの「健康づくり」のため、今後、さらに事業費の節減に努め、この計画を完成させてまいりますので、なお一層のご理解と

ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、本町の基幹産業であります水産業の昨年の水揚げは両漁協合せ35億円を超えると予想されておりましたが、34億円前半にとどまったところでございます。特に、年末に起きました船泊地区の海難事故は真に残念であり、心から、ご冥福をお祈り申し上げる次第でございます。

また、主要魚種であるホッケが水揚量で10%程度の落込みがあり、大変心配されましたが価格の値上がりによって、金額ではほぼ前年並となったこともあり、全体としては前年を上回る結果にひとまず安心しているところでございます。

しかしながら、漁船漁業、根付漁業ともに魚種ごとに変動があり、また、好漁魚種のなか

には少数経営体によるものもあること、あるいは燃油の急激な高騰など、漁家全体の所得の向上にはまだまだ不安定な要素が多いと考えています。加えて、漁業者の平均年齢も65歳と高齢化が進んでいるなかで、次代を担う若手の育成や「つくり育てる養殖事業」、漁場造成事業や価格安定のための付加価値向上対策事業などを推進し、一層の漁業経営の近代化と生産性の安定、向上を図り、安心して漁業に専念できる環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

また、観光につきましては、昨年においても前年比で11%減の18万人前半の入込数と推計され、5年連続の減少となったところでございます。

団体ツアーから小グループや個人への観光形態の転換などが影響しているものと考え

ており、観光もこれまで以上に厳しい時代を迎えていることを深刻に受け止めなければなりません。

こうした厳しい現状を乗り越えるため、礼文島の恵まれた自然環境の保護とPRを積極的に展開するとともに、礼文ならではの「食」を核にした観光振興の展開、広域観光ルートとしての「宗谷シーニックバイウェイ」を活用した観光エージェントへのプロモーション活動や高山植物培養センターでのレブンアツモリソウの開花調整、また、昨年から行っている「観光シャトルバスの運行」、更に観光アクセス向上のためのフェリー運航ダイヤの改善などに努めるとともに、現在進めている『温泉』を活かした「最北の花の島・礼文島」の観光誘致に全力で取り組んでまいります。



しかしながら、観光の基本はなんと言いましても「おもてなしの心」でございます。

どうか、観光に携わるみなさんはもちろん、総ての町民みなさんが観光ホスピタリティの向上に努めて下さることを切にお願いする次第でございます。

本町の教育に対しまして、多くの皆様がたから温かいご支援ご協力をいただいておりますことに心から御礼を申し上げます。

子供は地域の宝でございます。今や全国的にも注目されております「保育所から小中高の教育連携」や地域に学ぶ「礼文学」などの取組はもとより、観光大使活動や自然環境、高山植物の保護活動、あるいはまた、お年寄りのみなさんのお力をいただいて行うことができまして「ジュニアスクール」など、教育に寄せる地域のみなさんのご支援ご協力

は目を見張るものがありました。本年もさらに連携を深め、未来を担う子供たちを学校と地域が協力しあいながら健やかに育てまいるたいと思いますので、変わらぬご協力をお願いいたします。

また、去年の暮に、礼文島が全道一犯罪や交通事故の少ない安全な町であるというニュースがございました。現在死亡交通事故死ゼロ 500 日に向け、全町あげて取り組んでいるところであり、また、一昨年「安全で安心な町づくりに関する条例」を制定し、安全で明るい町づくりに努めているところでございますので、町民のみなさまには、今年も犯罪や交通事故のない、明るく住みよい安心安全な町づくりにご協力を賜りたいと存じます。

さて、国の経済は、戦後最長の景気拡大と言われながら、特に地方においては未だ

低迷から抜け出せない状況にあり、更に燃油の高騰が加わって、わが町の経済にも深刻な打撃を与えております。

国の政治も、「福田内閣」に変わり「地方重視」を掲げておりますが、その基本にあるものは「改革の推進」であり、公共事業の更なる縮減など、今後もわが町のような小規模な町村は厳しい時代を歩んでいかなければなりません。本町の「行政改革集中改革プラン」に基づき効率的な行財政運営に努めてまいります。

特に、今年は手数料や使用料を3年ごとに見直す年にあたっているわけですが、町の経済状況などを十分に踏まえて検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解をたまわりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、市町村合併問題につきまして申し上げます。

私は、合併は避けて通ることができない大きな問題であり、「合併新法」の期限内に取り組んでいくことを申し上げてまいりました。わが町が、合併に向っていかざるを得ない状況にあることについては、議員みなさんとも共通の認識を持ったなかでこれまで協議を重ねてまいりましたが、最終的にどこと合併するにつきましては、残念ながら意見の一致を見るに至っておりません。

私は、平成22年3月の合併新法の期限を見据えたなかで、町民みなさんの意向や考え方を反映した方向性というものが一番大事であると考え、昨年10月12日から11月10日まで「市町村合併地域懇談会」を開催させていただきました。

夕張市が「財政破綻」となり、18年間で350億円を超える赤字を解消しなければならない状況はみなさんご承知のとおりであり、こうした状況を意識しながら、私は、少子高齢社会に対応する効率的な財政運営と地方分権社会に対応するため、基礎自治体が求められているみつつの能力を向上させるためには稚内市との合併に向かうべきと申し上げてまいりました。懇談会では町民みなさんから大変貴重なご意見・ご意向をいただきましたことにあらためて感謝申し上げる次第でございます。特に、わが町の過疎化・高齢化を心配されるご意見や小さい島の私たちの声が大きな市に届くのかと懸念されるご意見などは、しっかりと受け止め、対処していかなければならないと思っております。

私は、この合併懇談会でのご意見、ご意向を踏まえ、私と議会との考えを一つにするべく、ただ今、協議を進めているところでございます。

そして、合併新法の期限まで2年あまりとなった今年は、町民みなさんの意向を反映した方向性を持って、合併協議のテーブルについて、具体的な協議に入らなければならないと考えているところでございます。

以上、平成20年の輝かしい新春にあたり所感の一端を述べさせていただきました。今年の仕事始めで、職員には「スピード感あふれる仕事をしよう!」というお話をさせていただきました。

そして、「清く正しく美しく」を合言葉に、今年も「元気のでる礼文づくり」に向かって職員ともども頑張る所存でございますので、どうぞ、

みなさまの温かいご支援をお願い申し上げる  
次第でございます。

今年一年が皆様にとりまして素晴らしい年で  
ありますよう心からお祈り申し上げまして、新  
年のご挨拶といたします。

ご清聴ありがとうございました。